



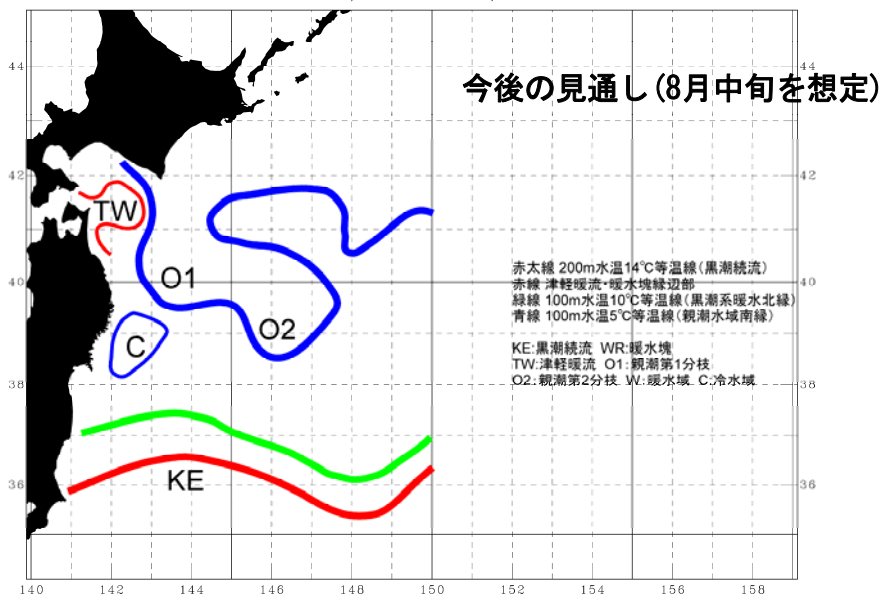
## 平成29年度 第3回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
東北区水産研究所、北海道区水産研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(平成29年8月~9月)のポイント

- ・ 近海の黒潮の北限位置はかなり北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の南限はかなり南偏で推移し、三陸近海に冷水域が残る。

Cor. TEMP. AT 100m DATE: 2017/0811 - 2017/0820



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所

担当：業務推進部 藤井、樽井

資源環境部 市川、笥

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

## 平成29年度東北海区海況予報 第3号

### 《今後の見通し（2017年8月～9月）》

- (1) 近海の黒潮の北限位置はかなり北偏（北緯36° 30' ～37°）で推移する。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限位置はかなり南偏（北緯37° 10' ～38°）で推移する。
- (3) 常磐はるか沖の暖水塊は消滅する。
- (4) 親潮第1分枝の南限はかなり南偏（北緯37° 40' ～39° 30'）で推移し、三陸近海に冷水域が残る。
- (5) 親潮第2分枝の南限はかなり南偏～かなり北偏（北緯38° 30' ～41° 10'）で推移する。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～極めて弱勢（東経143° 10' 以西）で推移する。

### 《海況の経過（2017年1月～6月）の特徴》

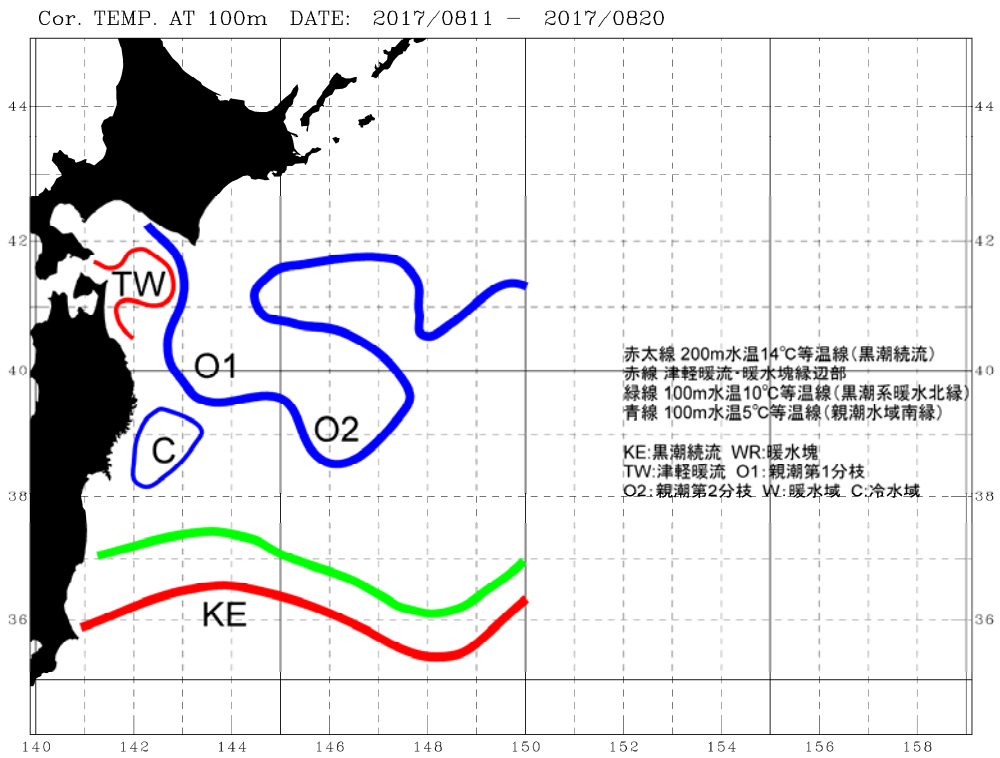
- (1) 近海の黒潮の北限位置は4月のやや南偏（北緯35° 40'）以外はやや北偏～かなり北偏（北緯36° 20' ～37° 20'）で推移した。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限位置は平年並み～やや南偏（北緯37° ～38° 30'）で推移した。
- (3) 2016年6月に常磐沖390kmに出現した暖水塊は4月まで三陸沖60～230kmに停滞したあと消滅した。5月に常磐はるか沖920kmに発生した暖水塊は西進した。
- (4) 親潮第1分枝の南限は1月はかなり北偏（北緯41° 50'）であったが2月以降は平年並み～極めて南偏（北緯36° 50' ～39° 30'）で推移した。
- (5) 親潮第2分枝の南限は平年並み～かなり南偏（北緯38° 30' ～39° 50'）で推移した。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり強勢～極めて強勢（東経143° ～143° 30'）で推移した。

### 《現況（2017年7月中旬）の特徴》

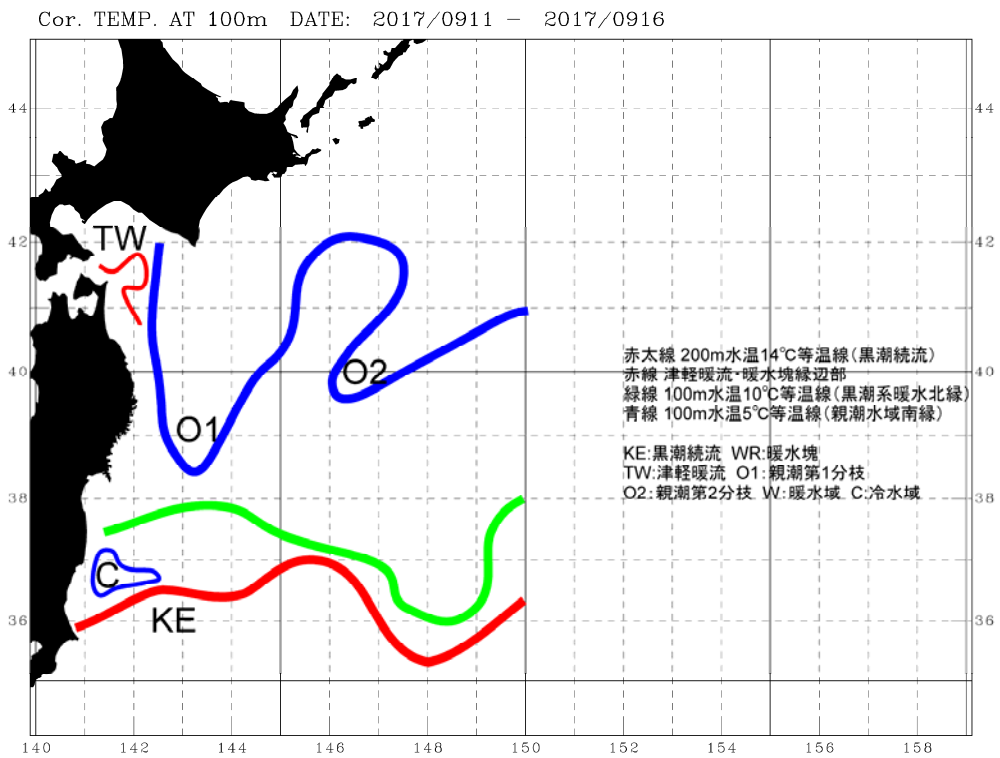
- (1) 近海の黒潮の北限位置はかなり北偏（北緯36° 40'）である。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限位置はかなり南偏（北緯37°）である。
- (3) 暖水塊が常磐はるか沖690kmにある。
- (4) 親潮第1分枝の南限はやや南偏（北緯38° 50'）である。三陸近海に冷水域がある。
- (5) 親潮第2分枝の南限は極めて南偏（北緯38° 40'）である。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり弱勢（東経142° 50'）である。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

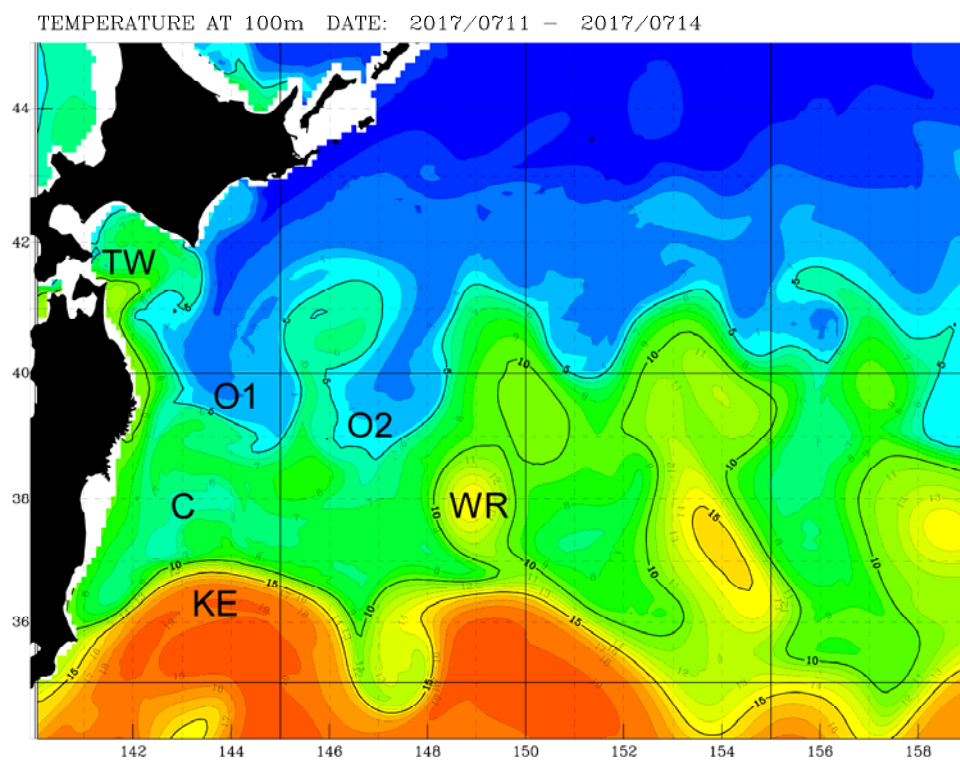
### 8月中旬予測水温分布図



### 9月中旬予測水温分布図



7月中旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

## 参 画 機 関

|   |  |
|---|--|
| <p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター<br/>水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p> <p>茨城県水産試験場</p> | <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構<br/>北海道区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人水産研究・教育機構<br/>東北区水産研究所</p> |
|---|--|